



坂東会

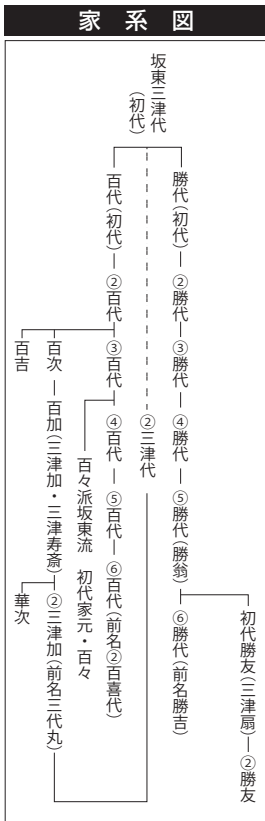
坂東会
100
周年
2021

知っておこう！坂東流 第9回「女狂言師三津江と並び称された三津代」

踊りが盛んだった江戸時代には、踊りの師匠の
人気や技量などを位づけした番付が発表されまし
た。その番付に女狂言師として名が残る三津江（二
代目）と並び、行事格大上上吉の位置（これがど
れくらいの地位であるのかは筆者不明）にあるのが
坂東三津代です。三津江の地盤が主に山の手であつ
たのに対して、三津代は嘉永から明治時代につけ
て神田久右衛門町（現在の千代田区佐久間町）に
住み、下町を地盤とする大師匠であつたようです。

江戸時代は踊りを披露する晴れの舞台として、
祭礼で踊りを奉納する「踊り屋台」がありました。
各氏子町会には名のある踊り手を選んでその優劣を
競ったそうで、神田祭の踊り屋台の振り付けや後
見などにも三津代の名前が多く見られます。この
三津代の系統は百派と勝派に枝分かれて、現在
まで続いています（左図）。

その名前を二代目として継いだのが、「蔵前のお
師匠さん」と呼ばれる三津代です。三津代はもと
は若柳流でしたが、その芸を見込まれ七代目の直
門となり後進の指導にあたりました。そのお稽古は



二代目坂東三津代（中央）

大変に厳しく、三津代の弟子であつた二代目三津加
（平成29年逝去）は『田舎巫女』のお稽古で花道
から舞台までの振りを3度で覚えられず、『二代目
三津加を継いで舞踊をやっていく人がそんなことで
いいのか！』とそれは厳しく叱られました』と当時
を振り返っています。

目次

家元あいさつ・家元情報	2～3
家元代々よもやま話	4～5
支部だより	6～9
企画部が行く・舞踊会のお知らせ	10～11
伝承 坂東流 第5回	12～13
坂東勝雅先生ご逝去・出演者募集	14
青年部活動報告・出演者募集	15
事務局からのお知らせ	16



家元 坂東 巳之助

政府による緊急事態宣言の発出から早くも半年以上が経ちました。解除から数えても間も無く半年。しかしながら感染者数は増減を繰り返して、事態が収束したとはおよそ言えない、油断出来ない状況が未だ続いています。

そんな中坂東流の皆様には緊急事態宣言発出とほぼ同時期より、私からのお稽古自粛のお願いという形で自衛をお願いして参りました。その事について前号に於いて「今後の在り方を考える時間を今しばらく頂戴したい」といった旨をお伝えしまし

たが、それによってやきもきした思いでおられた方も多い事と思います。この場に於いてお詫び申し上げます。

この半年間、世界、日本、社会、舞踊界、演劇界とりわけ歌舞伎界と、様々な観点からこの事態を考え、頭を悩ませ続けてきました。私自身も八月の歌舞伎座再開公演に出演させて頂いたり、毎月のナレーション収録のお仕事、テレビ番組の収録などを通して各業界の感染対策の在り方などを勉強して参りました。

そして去る10月4日、コロナ禍に於いて初となる名取試験を執り行いました。受験希望者にはご家族とよくよくご検討いただき当方ともご相談の上、実際の受験者数を絞り、従来では私の自宅だった試験会場は浅草見番としました。また、名取式と師範試験は行わず、試験と合否の通達のみという形での開催となりました。

当然入場前には検温を行い、時間指定によって受験者同士の接触は極力避け、試験中の受験者と私の距離

も充分にとり、私からの合否の通達にはビニールシート越しで行うといった様子でした。

従来とは大きく異なる形式でしたが、受験者並びにその師匠の皆様が柔軟かつ協力的に対応して下さったこともあり、試験自体は滞りなく行えたように思います。しかしながらこの稿の執筆段階では未だ試験日より二週間は経っておらず、一抹の不安が拭えないでいるのもまた事実です。

また、名取式に関しては従来の形であれば合格者が一堂に会し、現状ではおよそ考えられない『お杯』という儀式が含まれることから、今後どの様にしていくか依然頭を抱えている最中です。

これらのことから私が今考えるのは、絶対に感染しない・させないと保障できる環境など作り得ないのであろうという事。それでも絶対に感染しない・させないという強い思いをもってしっかりと感染対策を行う事が自分と身の回りの人々、そして坂東流、ひいては日本舞踊界全体を守る事になるのであろうという事です。

個々人の感染の有無については申し訳ない事に存じ上げませんが、日本舞踊界に於いては幸いな事に、大きく報じられるような感染拡大は現在のところ起きていません。しかし、舞台演劇界全体に視野を広げれば、本番中・稽古中問わずクラスターの発生が最近にも報じられています。つまり、我々にも等しくその危険性が付き纏っているという事です。

万が一坂東流の稽古場・舞踊会の会場から感染者が出てしまった場合、どの様な報道がされるでしょうか。コロナ禍以前より日本舞踊人口の減少、世間の日本舞踊に対する無関心が懸念されてきた中で、その稽古場・舞踊会が何流のものであったかに世間一般の目は向くでしょうか。悲しい事に答えはNOです。日本舞踊の稽古場で…という様な報道になるでしょう。そしてもし、その現場で感染対策が充分に成されていないでしたら：バッシングは避けられないでしょう。坂東流は元より他流の方々、つまりは日本舞踊界全体に大きなダメージを与えてしまう事が想像できます。

と、ここまで脅す様な事ばかり書

いてしまいましたが、私はなにも、一切何もせずに消えゆく灯火を黙って見守っていると言いたいものではありません。充分過ぎるほどに十分な感染対策を行う事、それに伴い状況に応じて伝統を覆す事の重要性を、多角的に認識して頂きたいのです。

対面でのお稽古を自粛され、リモートでのお稽古に力を入れているお稽古場の話など、私はとても嬉しく思っています。祖父母に聞かせたら激怒しそうですが、現代に於いて伝統を守っていくとはそういう事なのだと、強く感じています。

今後私の方からも、従来では考えられない様な変化をお願いする事もあるかと思いますが、どうか柔軟にご対応いただきます様お願い致します。

長くなってしまいましたが、以上が今の私の考え、想いの全てです。どうかこの想いを受け止めて頂き、ご自分の胸に留めて頂き、その上で考え得る最良の選択をし、伝統の火を絶やさぬよう、躍起にならず、慎重に冷静に、けれど熱い想いを胸に宿して、坂東流を守っていつて下さる様お願い申し上げます。

家元情報

博多座

市川海老蔵特別公演

11月11日(水)～25日(水)

昼の部『流星』
夜の部『茶壺』『お祭り』



坂東流
ホームページより

令和3年は

九代目二十三回忌
十代目七回忌を迎えます

本年、当代は8月の花形歌舞伎公演の『棒しばり』に続き、11月博多座では『流星』『茶壺』と代々ゆかりの演目を次々に勤められます。

会員の皆さまにおかれましてもコロナ禍の昨今、生活スタイルの変化を日々模索しつつ、お過ごしのことと存じます。

令和3年2月21日(十代目七回忌)、4月1日(九代目二十三回忌)の御命日には、お心のうちでお手を合わせてくださいますようお願い申し上げます。



七代目 八代目 九代目 喜子
寿子 まさ ひろ子 十代目 慶子



八代目三女の寿子先生が家族ならではの話を寄稿してください。

七代目のおもひで

私にとっては祖父にあたる七代目との思い出は終戦後に疎開していた七代目夫妻を我が父八代目と私の姉である九代目夫人が迎えに行き、京都での約3年間一緒に暮らした時の事が一番強く残っています。

私は幼い頃から祖父が大好きで祖父の家に行くと必ず彼の膝に乗っていました。ですから京都に祖父が滞在していた間は嬉しくて、学校から帰って来ると常に祖父母の部屋に入り浸り、祖父のする事なす事をいつもずっと見ていました。

七代目の一日は、朝7時に起床し神様仏様をお参りすることから始まります。その後朝食―時計の時間合わせ―父八代目との芸談・雑談―12時に昼食―3時におやつ―6時にお風呂―7時に夕食―9時半から10時に就寝と、この時間割はほとんど変わることはありませんでした。京都に来てからの生活が落ち着くと、関西在住の名取さんのお稽古を始めました。ある時、『保名』のお稽古中にそれを見ていた私はポロポロと泣いてしまいました。それに気づいた祖父に「チャコどうしたんだい？」と尋ねられた私は「だって保

名がかわいそうなんだもん」と答えました。すると「そうかい。チャコは感受性が強いんだね」と祖父は微笑んでいました。そしてみんなに「なんで、お前さんたちは、人間は足が2本、手が2本しかないのにバラバラになっている。体と手足と一緒に動かないとダメなんだよ。自分で自分の体を難しくしている」。それが耳に残っております。時折夜になると祖母が三味線を持ち出して「チャコや、何でもいいから踊ってごらん」と言ってくるようになりました。なにやら弾き語りが始まるので、私が音に合わせて勝手振りをすると祖母は「上手いね、上手いね」と喜んで、それから「チャコ、またお楽しみ時間しようか？」が祖母との合い言葉になりました。もう一つの思い出は、夏になると祖父は私たち三姉妹によく怪談話をしてくれて、そこに父までが一緒に下げて脅かしたり、それがまた上手に怖いものだから我々姉妹はキヤアキヤアと叫んでそれはもうとても楽しい時間でした。

さて話は変わって、七代目の趣味のお話をします。祖父の趣味はどうやら

時計だったように思います。先ほど朝の時計の時間合わせについて述べましたが、祖父は6、7個の懐中時計を持っていて、しょっちゅうズラリと広げて時計屋さんが持っているようなルーペを目にはめて筆の先を使って秒針まで合わせるのです。私は最初祖父が何をやっているのか分かりませんでした。が、祖父に何をしているのかを尋ねると「これはね、秒針を合わせているんだよ。秒針まで合わせないと心持ちが悪いからだよ」と言われました。私が「気持ち悪いんだあ」と言うと祖父は必ず「心持ちだよ、心持ち」と言って直してきました。

また、朝のルーティンの話で神様にお参りをするというのがありました。が、実は祖父が何の神様にお祈りしていたかは誰も知りません。一度祖母に「チャコや、おじいちゃんがお参りの時に膝を叩いていたら、それは何かお伺いを立てている時だからそばに行ってはいけないよ」と言われた事がありました。確かに祖父は三日に一度くらいは膝を叩いていましたが、私は言いつけを守ってその様子を遠くから見つめていただけにしました。

ある時、父が『勸進帳』をやる事になり、富樫の太刀持ちを寿子に演らせたいと父が言う。祖父が「良いじゃないか。ではチャコ、正座の練習をしようか」と言って廊下に正座をさせられて、初めは10分、その後10分ずつ伸ばしていき、ついにはとうとう1時間も正座ができるようになっていました。祖父はその際に時計を持って毎日付き合ってくれていました。正座が出来るようになる、次には舞台での座る位置や太刀を富樫に渡すタイミングなどありとあらゆる所作を教えてくれました。後からそれを知った父には「なんて贅沢な太刀持ちなんだろう」と言われたものでした。

そうこうして京都での祖父との生活が約3年に渡って続きました。祖父が東京に戻る事になった際には私は京都駅で大いに泣きました。でも毎年夏休みになると私は東京に一人で遊びに行き、祖父が歌舞伎座に出演している時には一緒に歌舞伎座に出かけ、楽屋では一緒に天國の天井を食べ、帰るときも一緒に祖父にベッタリの私でした。

その後私が結婚をする事になり、報告のために祖父のところに行くと祖父

は「まだ早い！」とただ一言。私が困っているのとそれに対して祖母が「旦那、チャコはもう24歳ですよ」と言ってくれましたが、祖父はただ黙ってそばを向いてしまいました。そのとき私はどうしたら良いか分からなくなってしまう、ただ下を向いて泣きそうになった事を今でも覚えています。

今回、祖父である七代目との思い出をこうして徒然なるままに書くうちに、私は本当に祖父母に可愛がられて幸せだったのだと再認識することができました。そして私の幼少期や多感な十代を七代目坂東三津五郎という偉大な祖父とそれを支える祖母と共に過ごす事が出来たことはその後の私の人生にとっても大切な時間だったと改めて実感しました。これからも私は時間と機会の許す限り、祖父七代目、父八代目坂東三津五郎との思い出や口伝を皆さんにお伝えできればと思います。

ではまた、その時まで。ごきげんよう。

坂東寿子

支部だより

4月7日の緊急事態宣言以降、新型コロナウイルスの影響は全国各地に及んでいます。

坂東会の支部役員の皆様になくなるコロナ禍の近況をお寄せいただきました。

コロナ禍での教室運営

北海道支部 坂東 希代広

1月のクルーズ船の新型コロナウイルスの感染症騒動のさなか、北海道では雪まつり後に感染者が確認され、その後クラスター等により、次々と拡大したため、北海道知事が国や他道府県に先駆けて緊急事態宣言を発令しました。

それを受け、全道の全ての学校や公共施設が休止され、私達のカルチャーセンターも3月から6月まで休講となりました。7月に再開しましたが、感染拡大防止と熱中症対応に留意した教室運営となり、手指の消毒はもとよりエアコンの換気や一人ずつの時間差稽古としてお弟子さんも私もマスク着用の稽古となりました。「三密」と「熱中症」対策に留意して教室を運営して

きましたが、おかげさまで一人の体調不良の方もなく元気で楽しくお教室に来られていますので何よりとほっとしております。

近況報告

東北支部 坂東 寿英



仙台駅に飾られた今年の七夕飾り

今年は仙台の青葉まつり、七夕まつり、地元の芸術祭、舞踊会の歳末助け合い公演などが全て中止となりました。9月の師匠の会「映の会」は来年に延期です。職場も交代勤務になり、弟子の子ども達も入学式が延期、入院

中の母（96歳）に面会もできず、東日本大震災を思わせる日々でした。6月に入り少し落ち着きを取り戻し、カルチャーセンターが再開、学校も始まり、7月から子ども達のお稽古も再開しました。もちろん、三密に注意しながらです。県をまたいだの行動を避けるため、師匠のお稽古は4月から中止ですが、チューブでの三津映師匠の舞踊稽古配信により奮起。コロナウイルスに負けてはいられないと思っています。

舞踊六十年余に想うこと

関東甲信支部 坂東 富三輔

関東甲信支部の委員を6年に渡って務めさせていただいたおかげで、若い方々との交流も多く、楽しく勉強させていただいております。いつの間にか年長者になつてしまい、時の流れをひしひしと感じます。思い返せば、昭和31年の春、お名取式の日七代目様が、当時まだ生後2ヶ月の十代目様を大変嬉しそうに抱いて来られて、「きょう初めて皆のところに連れて来たよ」と仰ったことを、昨日の事のように記憶しております。まだ若かった私は驚きと緊張

子ども教室のお稽古

東海支部 坂東伊峰

で、先輩方の後ろから、こわごわ拝見するだけでしたが、その光景は今でもはつきり覚えております。それから数十年の月日が流れ、その間、5人のお家元様の御指導を受けることができませんでした。どのお家元様ともそれぞれに想い出があり、本当にお世話になりました。コロナ禍で、地方でも舞踊会などの中止が相次いでおりますが、教えていただきましたことを次の世代に伝えることが、私の使命と思っております。微力ではございますが、これからも続けられる限り精進したいと思っております。

子ども教室のお稽古もお休みと再開の繰り返し：子ども達も学校の授業等慣れない生活が続くなかではありますが、マスクの着用やアクリル板の設置、除菌マシンの使用等、できる限りの対策をして、個人や姉妹でのお稽古を再開しております。発表会が延期・中止となった今の機会を利用し、これまでは出演に向けてのお稽古に追われ、なかなか時間が取れなかった曲や、曾祖母楽瞳が振付させていただいた地元民



こども教室の様子

謡『尾鷲節』も久しぶりにゆつくりとお稽古し、着付け練習等も取り入れながら、子どもたちはもちろん、親御さんにも今の時期にしかできないような日本舞踊に通じる踊り以外の部分にも興味をもってもらえたらと思います。

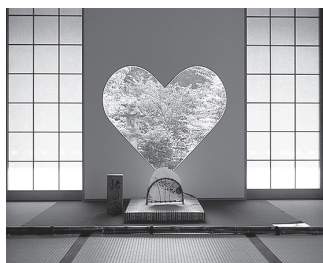
京都だより

関西支部 坂東三勇寿

令和2年、今年坂東会では、大きな催しが目白押しで華やかな一年に

と・・・2月の総会に始まり、東西のチャリティーゆかた会。9月には坂東会創立百周年記念舞踊会。等々、楽しみしていましたところ、新型コロナウイルスの感染拡大で全てが中止かつ延期になり、とても残念で仕方がありません。

坂東会のみなさま、コロナ禍の中の日常、どの様にお過ごしでしょうか。それぞれ、お家で工夫され、お習いになられました踊りの復習など、お好きな坂東流の舞踊を、自分りモートなどされ、お過ごしのことと存じます。私も楽しみしているお稽古も4月より自粛し、巣籠もり生活を心掛けてはいますが、新型コロナウィルスに移らない移さないを肝に銘じ、先日近隣の「京都宇治茶」で有名な宇治田原町（現在もコロナ感染者ゼロの緑の多い町）に少しの気晴らしにと、コロナ対策をしっかりとって思い切って行ってきました。



正寿院猪口窓

正寿院と日



一昨年前の先帝祭

本文化に欠かせない日本茶の祖・永谷宗円翁の郷・生家に伺いました。宇治製煎茶の製茶道具や焙煎跡を見学後、女子の私達はやっぱりスイーツです。宇治抹茶タップリの抹茶パフェをいただいて帰路につきました。今後、ワクワクやお菓ができ、安心してお稽古が存分にでき、舞踊会が開催できます事と、皆様方のご健康を御祈念申し上げます。

下関の先帝祭

中国支部 坂東三導由

コロナ自粛、豪雨、猛暑と大変な半年が過ぎ、9月の声を聞くころとなりました。今、各地でも様々な行事が中止になり寂しさを禁じえません。

下関でも1185年源平最後の戦いといわれる壇之浦の合戦でわずか6歳で二位の尼に



一昨年前の先帝祭

抱かれ入水された安徳天皇を偲ぶ『先帝祭』（毎年5月3日に行われ下関市指定無形民俗文化財になっています）が中止になりました。

幼帝の入水に続いて女官たちも後を追いましたが、漁師達に助けられ何ら生活手段を持たない彼女達は苦界に身を沈めていきました。

それでも幼帝のご命日には毎年身を潔斎し宮中の高位の上臈であった誇りを持って、赤間神宮に祀られている安徳天皇の御霊をお慰めしたのが『先帝

祭』の始まりです。

下関の舞踊会も50年以上前よりこの上臈参拝のご奉仕をさせていただいております。今年も坂東流の新名取が上臈に選ばれましたが、残念ながら来年に延期となりました。

この絢爛豪華な王朝絵巻を広く知っていたただくために動画サイトを発信する準備中です。その時は是非ともご覧いただけますようお願い申し上げます。

コロナ対策における四国支部の稽古様式について

四国支部 坂東仙章

四国はコロナに感染する人が比較的遅かった3月までは普段通りの稽古をして4月中旬より5月の連休明けまで休業している先生方が多かったと思います。

また2月から4月にかけての新年会（春の会）、及び7、9月のゆかた会を開催している教室は会を開催することができました（ただし、観客を入れずに出演者のみ）。

会の終了後、親睦をはかるために、いつもは打ち上げがあるのですが、今

年は中止し、すぐに解散しました。

各稽古場では三密を避け、常時マスクを着用し、消毒液を設置して稽古にのぞんでいます（ただし、年配者に関してはマスク着用は強要していません）。

現在（8月上旬）は感染者の減少とともに少し気が緩みがちですが、日々状況が変化しているので、その時々に応じた稽古をしていくよう心がけるつもりです。

コロナに負けずに

九州支部 坂東 三与昭

4月に勉強会をしようと計画致しておりましたが新型コロナウイルス感染拡大のため、中止致しました。お稽古もしばらくは自粛致しておりました。

熊本では6月頃には感染も収まりつつありましたので身内だけの勉強会をしたいと思っておりましたところ、感染が拡大しましたので再度中止いたしました。数人の子どもさん達は家族でお家勉強会をしたと聞き、おばあ様から髪を結い着付けをしていただき、子ども達も大変喜んでそうです。最近毎日暗い話ばかりで気が滅入っており

ましたが、その話を聞いた時は心が明るくなりました。

私の師匠（三津紀与先生）は102年前に流行したスペイン風邪に生後20日くらいの時に感染され、お医者様からは「もうだめですよ。」と言われたそうですが、98才まで長生きされました。今は全国コロナ拡大で益々自粛生活を余儀なくされておりますが、コロナに負けず、また以前の生活ができる様になります事を心より祈っております。



バーチャル公演に思う

ロサンゼルス支部 坂東 拓七郎

3月の第1週目、ロサンゼルスではほぼ一晩で私達の生活がガラッと変わった。新型コロナウイルスで普段の生活ができず、家から出掛けられなくなり、それは今でも変わっていない

い。日本と同じく、お稽古やお客様の前での公演やパフォーマンスが中止になり、ただ日本との違いは、私達は今でもその状態が続いているということだ。

そんな中、私は3月の末からバーチャル稽古を始め、今でも毎週ネット経由でお弟子さんと会ってお稽古を行っている。バーチャル稽古はカリフォルニアのお弟子達はもちろん、遠距離にいるお弟子達（東海岸や日本）も参加ができて、ドンドン盛り上がっている。

以前は遠距離のお弟子さんのお稽古は3カ月に1回で、中々前に進めなかったが、バーチャル稽古では毎週お稽古ができて、とても楽しい時間が過ごせる。この経験をはじめとして、日本舞踊ファンのため、またお弟子さんたちのためにも初めてバーチャル公演を開催した。特別出演で十代目ご長女の坂東奈央さんにご参加していただき、日本とアメリカにいてもかかわらず、公演が開けるようになったのは全て新型コロナウイルスのため、今後これまでも違う方法で稽古や公演行うことになっていくのだろうと考えている。



舞踊ゆかりの地をたずねて 第一回『半田稻荷』

舞踊『半田稻荷』は、疫病退散や五穀豊穡に思いを込め、魔除けとされる全身赤色の装束を着けて軽妙に踊る演目で、坂東流では古くから踊りつがれています。コロナ禍で講習会の開催が難しい日々が続く中、一日も早い疫病退散を願いつつ、東京都葛飾区にある半田稻荷神社を訪れました。

歌詞の二節「庖疔も軽い、麻疹も軽い、祈るは葛西金町の半田稻荷の幟竿」と唄われているとおり、この神社の最寄り駅はJR常磐線金町駅です。駅より歩くこと10分あまり、閑静な住宅地を抜



坂東三津二郎師

けた都道沿いに突如出現します。一之鳥居をくぐったところに、まず手水所があるのですが、最近はいす感染防止とカラスの被害を避けるため、御手水は止めていらつしやるとの事でした。石畳を進むと二之鳥居があり、その右手側に「神泉遺構」と呼ばれる井戸があり、それをぐるりと囲む石塔には市川団十郎や尾上菊五郎、守田勘彌など、当時キラ星のごとく輝いていたであろう歌舞伎俳優の名が刻まれています。お庭の藤棚の下には長椅子がしつらえてあり、訪れた人がほっと一息つけるスペースになっています。

その奥に厳かな拝殿があり、今回は神



拝殿

社のお計らいで特別にその中も見学させていただきました。拝殿入口の頭上には、鰻絵（うなぎえ）と呼ばれる白い漆喰細工の鳳凰が施されており、また拝殿の中も、枳目調に区切られた天井絵や、奉納されている額も大層立派な物でした。建立当時はおそらく豪華な極彩色に飾られていたことが容易に想像できる佇まいでした。拝殿の裏にはささやかな白狐殿があり、中には葛飾区最古のお狐さまが祀られているそうで、外周を幾つもの石製の狐が守っていました。その真ん中には御神木であるイチヨウの大木が立ち、時世の移り変わりを静かに見守っているようでした。



神泉遺構



コロナ禍での取材
本殿内



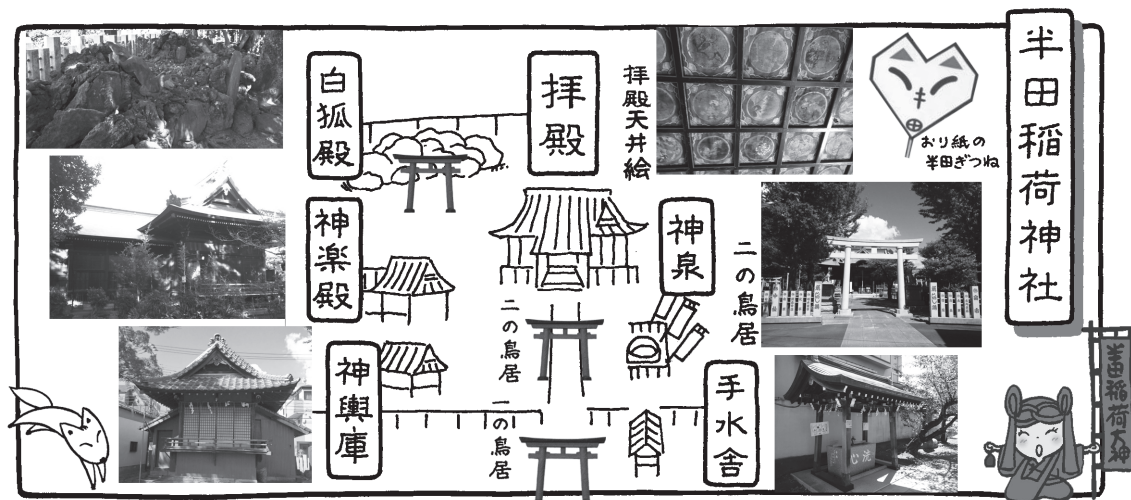
HP用ナレーション作業

4月の例大祭には 現在も赤色の装束を着けた願人坊主が登場するそうです。お神輿を先導しながら周辺を練り歩き、お祭りを盛り上げていらつしやると思います。近所の和菓子処「くまがい」さんでは願人坊主がパッケージにデザインされたお饅頭が売られており、地元の人々に愛されている存在であることが分かりました。

舞踊『半田稻荷』の原型になった願人坊主。どうかいつまでもその伝統が続きますように。

今回は半田稻荷を訪ねた際の動画をホームページにも掲載しておりますので、どうぞそちらも合わせてご覧下さい。

企画部



舞踊会の

お知らせ

寛和会

日時 令和3年1月5日(火)
主催 坂東寛二郎
会場 国立劇場小劇場

◎前号記載の会場名に誤りがありました。
ここに深くお詫び申し上げます。

第22回 扇の会

日時 令和3年4月10日(土)
主催 坂東勝友
会場 国立劇場大劇場

映の会 三津映の会

日時 令和3年9月20日(月)・(祝)
主催 坂東三津映
会場 国立劇場大劇場

第8回 扇菊会

日時 令和3年9月23日(木)・(祝)
主催 坂東扇菊
会場 国立劇場小劇場

つばみ会

日時 令和3年11月21日(日)
主催 坂東愛
会場 国立劇場小劇場



第五回

伝承 坂東流

温和でやさしく、いつもニコニコしていらしたという七代目。一方、芸においては名優諸先輩の教えと踊りの師の厳しい稽古の上に、ご自身の心のうちには強い信念をお持ちでした。

七代目の芸話と伝承

監修 坂東 寿子



『踊の秘訣』兼子伴雨編より

「踊りの神様」「歌舞伎の大学教授」と称された七代目。その芸を肌で感じることのできた人は少なくなり、伝説化しています。今私たちがその芸について知るよすがは2冊の著書とわずかに

に残る晩年の映像、そして教えを受けたお師匠さん方の伝承です。『七世三津五郎舞踊藝話』は踊りの教科書ともいふべき名著で流派を越えて読まれてきました。役者編といえる『三津五郎芸談』も、歌舞伎舞踊に端を発した日本舞踊ですから相通じる芸談と言えましょう。

今回はこれら2冊の著書が刊行される以前の、七代目三津五郎を襲名して間もない27歳、30歳頃の聞き書きと、病に伏せる前年の聞き書きをご紹介します。重複する内容であっても、語られた時を思いながら読むと、芸にひたむきに生きた七代目が浮かび上がってきます。

まずは明治42年、『演芸画報』名家真相録から。

初舞台は『先代萩』。九代目市川団十郎の政岡で鶴千代を勤めました。「例の飯焚場で、あのおむすびを食べる時、まだ子供のことでですから、つい二三粒食いこぼしたのを慌てて拾って食べたのです。その時はそれで済みましたが、後で九代目に『鶴千代という役は年が小さくても、立派な大名の殿様なんだから、こぼしたご飯を拾って食べたんなら、いけなさいよ、分かったかい』と教えられたことを、未だによく覚えておりますよ」

と深い記憶として冒頭で話されています。

七代目の芸談、芸話の中で頻繁に出てくる「気持ち」「心持」「心の心で踊る」「ハラ」「性根」。その芸の根幹がわずかに8才の初舞台にあるとは、驚きとともに名人の名人たるゆえんを感じます。

次に大正元年発行の『踊の秘訣』において、間々について語っておられる箇所をご紹介します。

「踊りというのは言うまでもなく振りと振りの繋がったもので、これを分ければ振出し、六拍子、左右というような名称の手がまとまっている。従って巧く踊れば振りから振りに移る間に何とも言えぬ味合があつて句切がついて角たたぬ。そこで極まるところは極まってもフウとして居るゆえ見ている方でも肩が張らぬ。しかしフックリと句切をつけて踊ろうとするとどうしても出した手が流れ、それを流れないようにしようとするとう崩れて取り止まらなくなってしまう」

「役を生きること」「間の味わい」についてこのように語っておられます。若手のうちから所作に秀で積み上げられた芸は、昭和30年、歌舞伎舞踊で初の人間国宝に認定されました。

では、最晩年、74歳頃の聞き書き（歌舞伎 研究と批評27史料 七代目坂東三津五郎芸談 今尾哲也著）をご紹介します。『型と芸について』と「踊りについて」より。

【型と芸について】

―型ってなんですか。

型はお腹から出るものです。型はお腹のなか以外にはないものです。

型はハラから出たものでして、いちばんよくハラを表すものです。小細工などでないいい型は、それだけで立派な演出で、もちろん言い廻しと息継ぎの関係と同じように、その人その人の寸法で扱いは違いますが、型を守ることはけっして型にしばられることではなく、いちばんいい演出を守ることであり、あとは役者の力によってどう役になりきり、役をあらわすかが大切なのです。けっきょく、問題はハラなのです。

型のなかで役になるんです。ハラ、性根がお腹のなかにしっかり入っていることが大事です。九代目（市川団十郎）はハラのしっかりしていた人でした。九代目は「大神楽は二本扇を落としてはいけませんが、我々は落としていいのだ。問題はハラであり、二本扇に気を取られてはいけない」といいました。

お腹があつて、そして、こうしようというのではなく、どこかにそのお腹が出てくる。芸とはそういうものです。（後略）

【踊りにについて】

―踊りの間とはどういうものですか。

間とは気持ちです。自分の間を持つことが大切なんです。間は地とべたつきに合っちゃいけません。ぶつかって自在に変化して、しかも、それが合わなくちゃいけないんです。（後略）

「型」については役者としての芸話の趣ですが、こうした七代目の教えと坂東流の特徴について、三人の先生方と杉昌郎先生が対談なさっています。ご存じの方も多いと存じますが、さらに次世代に受け継がれるよう、最後にその対談をご紹介します。

『邦楽と舞踊』平成19年1月号より。

杉―他のお流儀とここが違うとか。いい点悪い点、含めて。

寿子―「はずみ」ですね。直線的な世界ではなく、^{あだ}産み字を大事にする世界。「音と音との間」を大事にする世界。例えば「いち、に、さゝん」が入るんですよ、坂東流は。「二、二、三」じゃない。その「さゝん」を大事にするというのは七代目に言われました、

さんざん。それと芝居がかったものが多いですね。

勝友―役柄を大事にしますね。

三津二郎―私が清元『四季三葉草』の三番叟をやらしていたくので、「どういう風にやったらいいでしょう」「どうして聞いたなら、「お前さんたちはそういうふうを考えるからいけないんだよ」「この役はどういう役で、いくつぐらいか。それが分かれば、もうそれでいい」そう言われても分かんないんですよ。それが40年経って、「ああ、七代目さんがおっしゃっていたことはこういうことなんだな」と、いま分かてきました。

寿子―「振り」は「どうでもいいとはいませんが、「振りはいいいんだよ。ここ（胸を叩いて）を大事にしろ」要するに気持ちですね、「その役になって何を伝えるかということ」を大事にしろ」と、よく言われました。

杉―役者が家元の家というのは、「演じる」ことに重点を置く。「踊り」は「演じる」こと。それは坂東流の特徴だと思ふ。「音と音の間、間を大事にする」ということは表現しろってこと。動きで埋めるんじゃないって表現で埋めろってこと。そういうのを重視するのが、自ずと一つの流儀のカラーとして残っているんじゃないでしょうか。

坂東勝雅先生ご逝去

「ご冥福を心よりお祈り申し上げます」

坂東会元理事として、長年坂東流を支えてこられた坂東勝雅先生が、7月23日にご逝去されました。勝雅先生は、坂東会の重鎮であった勝翁師のお孫さんの元に嫁ぎ、勝翁師の後継者として後進の指導に尽力されました。

生前、家元様はじめ、諸先生方、皆様方に変にお世話になりましたこと、心より感謝お礼申し上げます。

母勝雅は、19才の頃より教え、今年師籍70年でした。勝翁の後継



ぎという重責を背負い、苦勞も多かったことと思いますが、代々の家元様、大先輩のお師匠さん方、姉妹弟子のお師匠さん方に支えていただき、お弟子さんにも恵まれ、踊り一筋幸せな生涯だったと思います。

八代目、九代目の家元様には、熱心なご指導をたまわり、教えていただいたことを宝物のように、よく話して聞かせてくれました。そしてお稽古では、自らが身につけたその宝物を、お弟子さん一人ひとりに、細

かいところまで教えていねいに、時には厳しく、身を粉にしてまで教えることを惜しまない人でした。亡くなった今、母の背中を見て学んだことの多さに感謝する日々です。

今後はその意思を継ぎ、門弟一同力を合わせ、努力を積み重ねてまいりたいと思います。ありがとうございます。

坂東勝規

出演者募集中

第3回 坂東流チャリティーゆかた会

今回より坂東流門下(名取でない門下)の方にも先着順で10番までご出演いただけます。

日時 令和3年8月15日(日)
場所 日本橋公会堂

出演条件 坂東流名取、坂東流門下であること

坂東流のお揃いの浴衣を着用すること

演目 坂東流名取(1演目10分以内)
坂東流門下(1演目5分程度)

出演料 1演目38000円

申込方法/ハガキ・FAX・メールにて、
出演者・演目・電話番号を明記の上、坂東会事務所まで

※演目数が整い次第締め切らせていただきます。

令和3年

関西地区チャリティー舞踊会

日時 令和3年11月20日(土)
場所 先斗町歌舞練場

青年部活動報告

(令和元年1月～
令和2年9月)

第57回 (総会)

令和2年2月9日(日)

- (1) 令和元年度青年部決算・活動報告
(2) 令和元年度和文化はぐくみプロジェクト活動報告

小中学校への訪問、キッズスクールでの活動、留学生支援企業協力推進協会での実演等が報告されました。

- (3) 係より 青年部規約の見直しについて
(4) フリートーク
今年度からの経費について

総会には28名が参加し、今後の活動について活発な意見が出されました。



総会にて、家元を囲んでの集合写真

第58回 (新年会)

令和2年2月9日(日)

家元にもご参加いただき、部員24名が集まり、お食事を楽しみながら青年部の親睦を深めました。



第59回 (リモート講習会)

撮影日 令和2年7月18日(土)

講師 松竹衣裳 細田周作先生

内容 「衣裳講習会」

青年部部員への動画公開 8月下旬から令和2年度末まで

感染症拡大に伴い、講習動画をYouTubeにて限定公開するリモートでの講習会を実施しました。松竹衣裳の細田周作先生に、「後見帯の結び方」「角出しの結び方」「引き着の着付け方」

「関の扉(関兵衛)の仕掛け」を講習いただきました。撮影には青年部係が参加し、撮影した映像をもとに字幕付の講習動画(65分)を制作、青年部部員にのみ閲覧可能な形でYouTubeに公開しました。

第57回 坂東流たすけあいチャリティー舞踊会

例年浅草公会堂にて開催していましたが大規模修繕工事中のため別会場での開催を予定しております。

お申し込みは3月1日からお葉書でお申し込みください

申込方法/往復はがきに出演者(芸名)、演目(20分以内)、演目の所要時間、衣裳付の可否を明記し坂東会事務所まで郵送

※演目数が重複した場合は先着の方が優先となります。

※演目数が正しい次第締め切らせていただきます。

ご出演ご希望の方は坂東会事務所までお問い合わせください。

申込方法/ハガキ・FAX・メールにて、出演者(芸名)、演目(20分以内)、演目の所要時間、衣裳付の可否を明記し坂東会事務所まで
※演目数が重複した場合は先着の方が優先となります。
※演目数が正しい次第締め切らせていただきます。

新名取ご紹介

令和2年10月
までの合格者

名取番号 芸 名 本 名 取立師匠

M-124	八桜啓	濱住	梨	心	啓
M-125	以緒綾	高野	綾	以	津緒
M-126	映 珀	青木	千	映	司
M-127	二三栄	兼子	益	美	一二三

結婚おめでとうございます

10-169 紫 葵

会 習 講 曲 試 験

令和3年

・松の緑
・師範会員の方対象です。お弟子さんに名取試験をお考えの師範会員の方はご参加をお勧めします。

日時／令和3年1月24日(日)
午後1時より

場所／浅草公会堂4階第2集会室
講師／波瑠加・勝彦・三代智

・北州・藤娘
・師範会員の方、師範試験を受ける予定の名取会員対象です。名取会員は取り立て師匠と一緒に申し込みください。

日時／令和3年1月30日(土)
藤娘 午後1時30分より
北州 午後4時より

場所／鎮仙会1階稽古場(表参道)
講師／啓・扇菊・以津緒

各講習とも1月15日(金)締切。事務所までお申し込みください。

お悔やみ申し上げます

令和元年六月	坂東	浩美嘉
令和元年八月二二日	坂東	弘 珠
令和二年四月二二日	坂東	祥三江
令和二年六月十八日	坂東	香代波
令和二年七月十日	坂東	美和輔
令和二年七月十日	坂東	智真紗
令和二年七月二三日	坂東	勝 雅
令和二年八月十日	坂東	左 秀
令和二年八月二四日	坂東	求 女
令和二年九月二七日	坂東	孝 明

名取・師範試験
申し込みについて

試験日／師範試験 令和3年3月5日(金)
名取試験 令和3年3月6日(土)

を予定しております。
申し込み締め切り／11月末日

詳しくは事務所までお問い合わせください。

●富士・さくら、修得証書

発行の申し込みについて
申込書の提出締め切日
2月10日・6月10日・10月10日

お詫び

7月発行の坂東会会報に掲載しました「知っておこう! 坂東流」の掲載回に誤りがありました。ここに深くお詫び申し上げます。

事務所だより

この度、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。また、令和2年7月豪雨の被害にあり、不安な日々を過ごされている会員の皆様におかれましても、一日も早い事態の収束を心よりお祈り申し上げます。

坂東会の今後の予定といたしましては令和3年度坂東会総会及び懇親会は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、懇親会、百周年記念パーティを取りやめ、総会のみ開催といたします。日時・場所については年明けに往復はがきにてご案内させていただきますのでご了承ください。

令和2年9月に予定しておりました百周年記念舞踊会につきましても詳細が決まり次第、別途郵送にてご報告いたします。何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

坂東会 第一三四号

令和二年十一月一日 発行

編集発行人 坂東会 広報部

発行所 坂東会 事務所

〒101-0047 千代田区内神田1丁目18-11

東京ロイヤルプラザ301号

☎ (〇三) 三五一八八二一〇

FAX (〇三) 三五一八八二二〇

E-mail: bandokai@crux.ocn.ne.jp